

## 焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

昨日（9日）23時50分頃から本日（10日）2時頃にかけて空振を伴う地震が発生し、山頂西側400メートル付近の山腹で白色の噴気を確認しました。  
今後の火山活動の推移に注意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

昨日（9日）23時50分頃から本日（10日）2時頃にかけて、空振を伴う地震を6回（速報値）観測しました。北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラでは、この時間帯に、普段では噴気がみられない、山頂西側400メートル付近の山腹において白色の噴気を観測しました。10日00時48分に確認した噴気は100メートル程度まで上がり東に流れていました。

その後、地震は発生しておらず、噴気も次第に弱まり3時以降は観測していません。

再び噴気が発生する可能性があります。また、火山ガスが噴出している可能性がありますので注意が必要です。今後の火山活動の推移に注意してください。

気象庁では、本日火山機動観測班を現地に派遣し調査を行う予定です。



図1 焼岳 山頂の西側で観測した白色噴気と発生位置（赤丸）  
（焼岳北監視カメラ、焼岳の北北西約5km）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『2万5千分1地形図』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

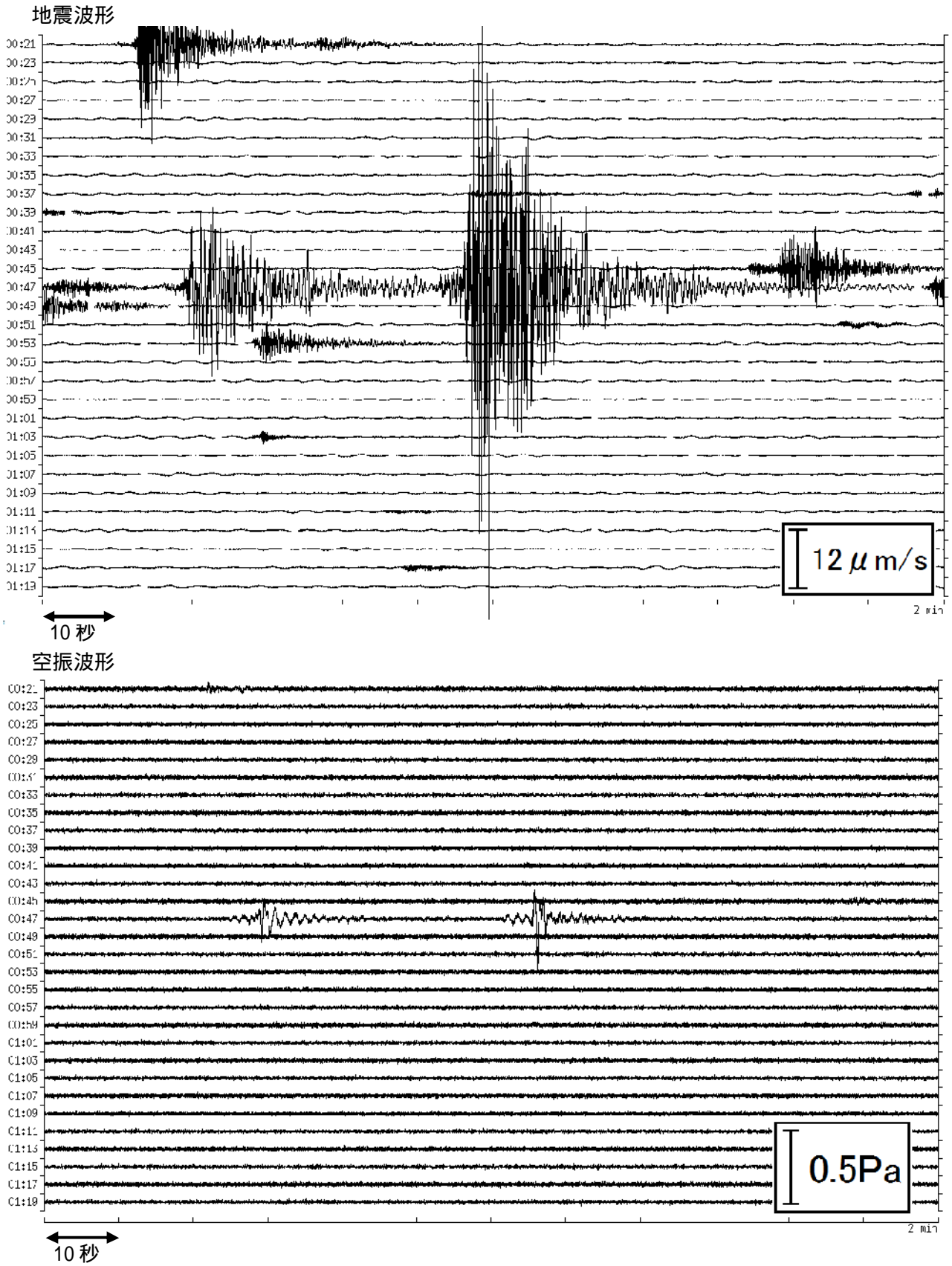


図2 焼岳 地震および空振の波形 8月10日00時21分~01時20分  
(地震(上): 焼岳南峰南東観測点上下動 空振(下): 焼岳中尾観測点)

【地震の計数基準の変遷】開始	2010年8月2日～2010年9月21日	中尾振幅 0.5 $\mu$ m/s 以上、S - P 2 秒以内
変更	2010年9月22日～2011年3月10日	中尾振幅 0.5 $\mu$ m/s 以上、S - P 1 秒以内
変更	2011年3月11日～2013年9月30日	中尾振幅 3.0 $\mu$ m/s 以上、S - P 1 秒以内
変更	2013年10月1日～	中尾振幅 2.0 $\mu$ m/s 以上、S - P 1 秒以内

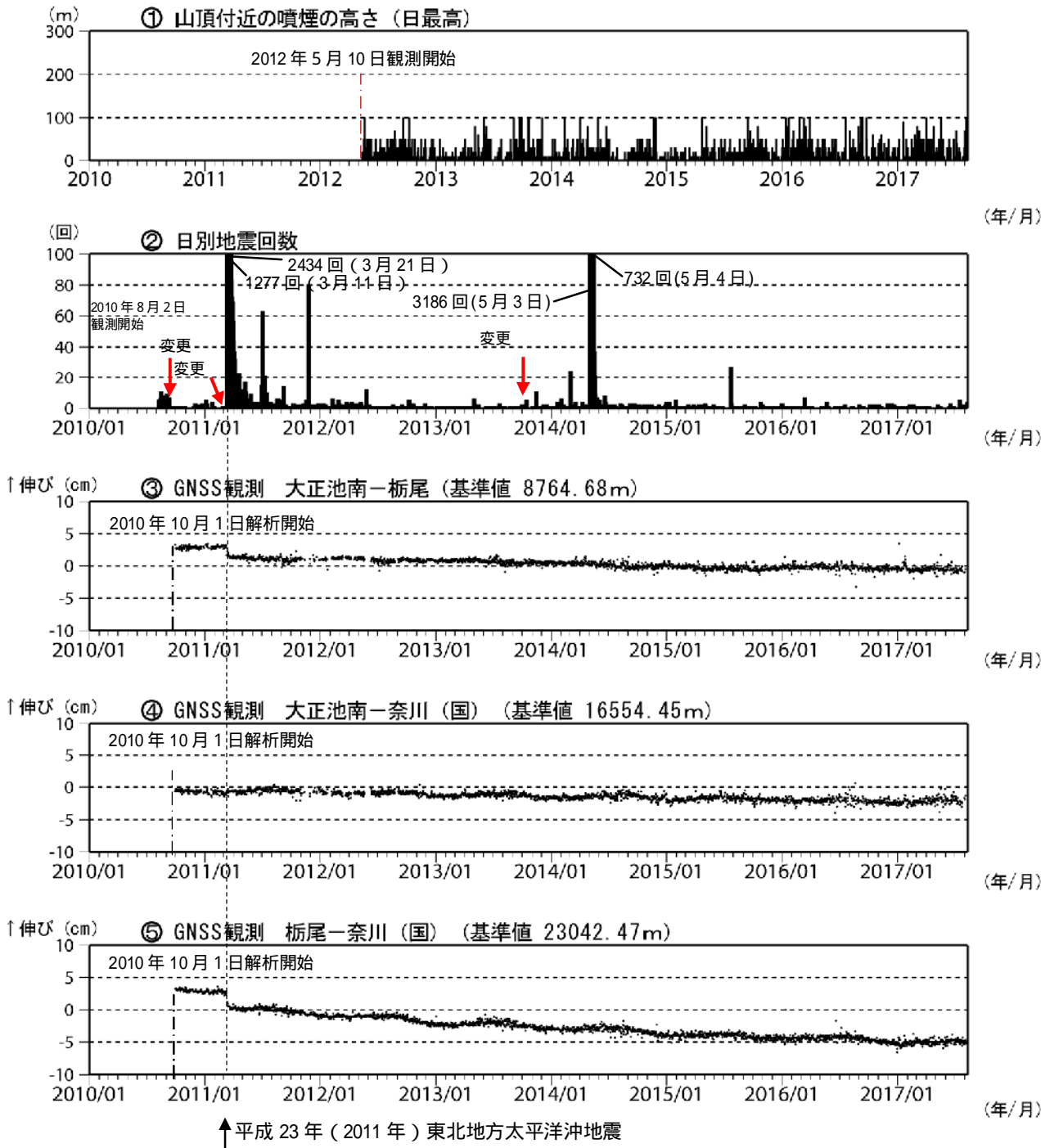


図 3 焼岳 火山活動経過図（2010年1月1日～2017年8月10日）

焼岳周辺の日別地震回数

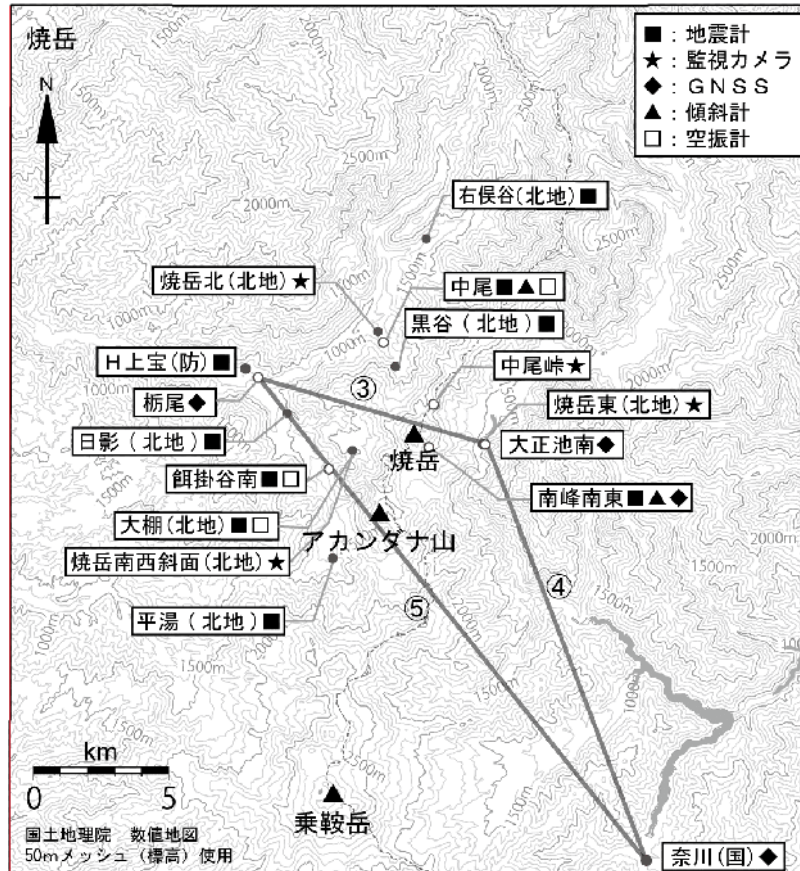
2011年3月11日に発生した「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。2014年5月3日から4日にかけてと2015年7月24日に一時的に活発化した後は低下しています。

～ GNSS 連続観測による基線長変化（国）：国土地理院

2011年3月11日に発生した「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の影響により、ステップ状の変化がみられます。

～ は図 4 の GNSS 基線 ～ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。





小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 （国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（北地）：北陸地方整備局

図4 焼岳 観測点配置

・GNSS基線 ~ は図3の ~ に対応しています。